

- ① 委員によるそれぞれの取組や展開している事業、ライフワークなどのご紹介
⇒西山委員、岡本委員、桂委員、飛田委員
- ② 1回目の議論を踏まえた方向性の整理・議論の深掘りなど（P2）
- ③ 上記②以外で、次期戦略の検討にあたり必要と考えられる項目（P3）

企画委員会(1回目)の議論を踏まえた方向性の整理

■ ご意見・ご提案

①東京ばかり向いている地方の目を、「地方」に向けることが必要(ローカル to ローカル)

- ・ 県外ばかりではなく、**五国内のつながり強化**
- ・ 「ご縁」を創出する機会への支援
- ・ 人と人をつなぐ重要性を社会的に価値化(= **ソーシャルキャピタル**)

②各地域にプラットフォームを創ることが重要(交流の創出、受け皿の整備)

- ・ **お試し居住促進**等で交流のきっかけづくり
 - ▼「人の動き」を活性化させて、
 - ホテルや民宿以外で滞在可能な**お試し住宅**等の利用者を増やすことが重要
 - 「サバティカル休暇」の普及も有効では!? (保育園、農村、離島留学等のニーズにも対応可)
- ・ 住める場所を増やすためには**空き家の活用**がポイント(「**賃貸化**」がカギ)
- ・ そこに住みたくなるような「**ロールモデル**」の存在は重要
- ・ **地域商社**の発掘・創業、そこへ向けた**県外企業**の研修や交流イベント等の創出

③「学んでいること」と「実際の就職」とのマッチングが、もっとうまくいけば・・・

- ・ **自由に働ける環境**、意外に**地方にもある**
- ・ 子どもへの感動体験

④「暮らし」や「交流」に欠かせない『食』

- ・ 域内食材を域外発信で**ブランド化**(小さい地産地消からの脱却)
- ・ 「食」を掘り下げて、**地域の固有性**や、**観光**、**多自然地域**への付加価値化ができないか

■ 取組の方向性 ※事務局案

○五国をつなぐ「縁」の創出

→県にできることは? 多自然地域の強化も

○「共創・共生」による取組の実現

→「共に」がキーワード、共感経済

(主な論点:まちの動き、社会の動き、経済の動き)

○交流を創出するプラットフォーム創出

→地域で「わくわく」を増やす場所、空間

○人の動きを受け入れる受け皿整備

→地域公共財として重宝、これを共有

(主な論点:ひとの動き、まちの動き、寛容性)

※「若者・Z世代」の「住まい」を抱合

○望む学び・働き方が叶う環境づくり

→夢をもたせる、視野を広げる

(主な論点:ひとの動き、寛容性、満足度(愛着))

※「若者・Z世代」の「学び」「働き」を抱合

○「食」を軸とした地域の活性化

→「食」と連携可能な項目を横断的に接合

(主な論点:まちの動き、経済の動き、固有性)

これらに取り組む根拠、背景、補足する説明として、ウェルビーイング、レジリエンス、インクルーシブ、サステナブル・グロース等を設定するイメージ

(参考)関連する現状の取組 ※事務局思い込み

←オープンイノベーションを通じて企業・関係者等の交流の場を創出するとともに共創プロジェクトを支援

←地域課題の解決を図るため、県内外のスタートアップ等の技術を活用した協働実証の実施

←多自然地域の課題解決を図るため、地域団体や大学、企業、NPO等が連携し、取り組む活動を支援 等

←空き家を改修し、住宅や事業所、地域交流拠点として活用するための必要な改修費用を支援

←県内各地で活躍する「すごいすと」の紹介や派遣

←SDGs体験型ワークショップ・プログラムを各地域等と連携のうえ造成し、交流を促進 等

←就活前からライフプランを考慮したキャリアプランニングに取り組むことを支援

←高校生の海外留学の応援や、卒業後の奨学金返済支援を官民連携で応援

←県内企業のワーク・ライフ・バランスやテレワークを促進 等

←県産特産品の生産から消費までをつなぎ、生産力・収益力を高め、競争力強化を図るブランド戦略を構築

←旅行者の個性・価値観に対応した自分らしい旅を実現する観光コンテンツの磨き上げ

←ひょうごフィールドパビリオンの展開 等

【意見交換 議題】

- ・ 「取組みの方向性(案)」への追加・修正意見
- ・ 意見の深掘りや、別視点の提供 等

企画委員会(1回目)の議論を踏まえた方向性の整理

【意見交換 議題】 その他の論点例

👉 1回目に頂いたご意見・ご提案以外で、次期戦略の検討にあたり必要と考えられる論点例を提示 ※事務局案 [参照：P4]

- ① 社会構造の変化(単身世帯の増加、働き方の多様化、インターネットの普及など)により、家族や地域、職場などにおける人との「つながり」の希薄化から生じる、**孤独、貧困、弱者への対応**に向けた方向性へのご意見・ご提案
- ② **芸術文化やスポーツ、伝統工芸**の促進による、躍動的で開放的な社会創造に向けた方向性へのご意見・ご提案
- ③ 様々な場での女性活躍推進などによる**ジェンダーギャップの解消**や**ダイバーシティの促進、外国人材の活躍**に向けた方向性へのご意見・ご提案
- ④ 農林水産業の振興と共に、それらを生業とする**地域の暮らしの元気再興**や、**自然との共生**に向けた方向性へのご意見・ご提案

(参考①) その他の論点例(P3)について

- ・ 企画委員会での議論における分野の偏りを防ぐため、現行戦略の施策フレームにおける「政策項目」をベースに議論の内容や方向性をチェック
- ・ 1回目の議論を踏まえた「取組の方向性」(P2)に関連する「政策項目(以下着色箇所)」以外で、事務局側から論点例を提示

■ 現行の戦略目標における施策フレーム

戦略目標	重点目標	政策項目
I 地域の 元気づくり	①幅広い産業が元気な 兵庫をつくる	1 兵庫の強みを活かした産地間競争力の強化 2 地域産業の振興 3 企業立地・投資の促進 4 起業・創業の適地ひょうごの実現 5 農林水産業の基幹産業化の推進 6 多様な主体の連携による活力創出
	②内外との交流が活力 を生む兵庫をつくる	7 地域資源を活かした交流人口の拡大 8 定住人口・関係人口の創出・拡大 9 交流を支える交通基盤の充実
	③豊かな文化が息づき、 安全安心でにぎわい あふれる兵庫をつくる	10 豊かな文化が息づき、にぎわいがあふれる 地域づくり 11 安全安心で、快適に暮らせる地域づくり 12 次代の人材が育ち、誰もが力を発揮できる 地域づくり
II 社会増対策	④自分らしく働ける 兵庫をつくる	13 地元就職の促進 14 UJIターンの促進 15 外国人材の活躍推進
III 自然増対策 (子ども子育て)	⑤結婚から子育てまで希望 が叶う兵庫をつくる	16 結婚のきっかけづくり 17 安心して子どもを産み育てられる環境の整備 18 子育て応援社会の形成
IV 自然増対策 (健康長寿)	⑥生涯元気に活躍できる 兵庫をつくる	19 健康づくりの推進 20 高齢者等誰もが安心して暮らせる環境整備 21 元気高齢者の社会参加の促進

左記のうち着色した項目 = 「取組の方向性」(P2)に関連

○五国をつなぐ「縁」
の創出
○「共創・共生」による
取組の実現
に関連するもの

○交流を創出する
プラットフォーム創出
○人の動きを受け入
れる受け皿整備
に関連するもの

○望む学び・働き方が
叶う環境づくり
に関連するもの
※12は「若者の育成」や「教育
環境の整備」の分野のみ

○「食」を軸とした地域の活性化 は、様々な分野との掛け合わせが可能
(例：ブランド化(5 農林水産業)、観光への付加価値化(7 地域資源を活かした～))

その他の論点例(P3)

- ① 人との「つながり」の希薄化から生じる、孤独、貧困、弱者への対応
⇒「12 次代の人材～」の「ユニバーサル社会の実現」に関連 (寛容性)
- ② 芸術文化やスポーツ、伝統工芸の促進による、躍動的で開放的な社会創造
⇒「10 豊かな文化～」の「芸術文化に親しむ機会創出」や「にぎわいづくり」に関連
(ひと動き、まち動き、固有性)
- ③ ジェンダーギャップの解消やダイバーシティの促進、外国人材の活躍
⇒「12 次代の人材～」の「全員活躍社会」や「多文化共生の実現」、「15 外国人材～」の
「高度外国人材の受入促進」に関連 (ひと動き、経済動き、寛容性)
- ④ 地域の暮らしの元気再興や、自然との共生
⇒「5 農林水産業～」の全般、「12 次代の人材～」の「豊かな環境の保全と創造」に関連
(社会動き、固有性、満足度)

(参考②) 第1回地域創生戦略 企画委員会における主なご意見・ご提案

基本的な考え方や7つの論点について

- 内容的に否定する要素はないが、「基本的な考え方」については、**何をどうすれば良いのかわかりにくい**ので、「これを頑張ったら、これが実現する」というような、具体的な明示があれば良いと思う。
- 基本的な考え方が4つ、論点が7つに分かれてあることで、「**伝える力・伝わる力**」が弱くなってしまわないかが懸念される。**どれか一つをメインキーワードに絞る**ことで、わかりやすくなるのでは。
- それぞれの関係性や強弱の部分でわかりにくいところがあるが、これからの議論で明確になっていければと思う。また、観光や産業、交流人口も大事であるが、**県民一人ひとりの「暮らし」をどうするかの部分も、より明確に示されていると良い**。
- 「寛容性」は重要。自分とは異なる価値観を受け入れるためには、まず、異なる価値観が存在することを知る必要がある。同じ場所には、そのことを知る機会も少ないので、**人を動かす等、変化を生み出すことも必要**。それぞれ相互の関係性を見ながらストーリーを作っていければ。
- これから地域創生の議論をするにあたり、**どこに向かい、何を目指すのか、それを委員会で共有した方が良い**と考え、個別の議論を始める前に、抽象的ではあるが認識の共有を図る趣旨であった。
- 基本的な考え方は最終的には何か一つに絞っていくことをイメージしており、その候補として4つを挙げている。ただ、これらのどれが県民にとって届くキーワードになるのかはわからないので、委員のご意見を踏まえて、県としても検討を進めていきたい。
- 7つの論点は地域の希望の要素に繋がるものと認識。これから**具体的な提案が出てきた時に、それがどの論点に関わるのか考え**、あるいは全体を見渡した時に、**ある論点が弱い場合は、提案を補完していく**といった、そのような活用の仕方で行っていくのが良いのでは。

●…委員ご意見 ○…県側発言

取組の方向性(P2)に繋がるご意見等

- ①東京ばかり向いている地方の目を、「地方」に向けることが必要
 - 地方からの矢印がほとんど東京を向いていて、地方は疲弊。**地方と地方の矢印を向き合わせることで、シナジーが生まれる**。
 - 兵庫五国の中での「**つながり**」を、もっと強化できる方向へ。
 - 共に暮らす、共に創る、共に生きるという考え方が重要。
 - 「**縁**」が活性化に繋がる。「縁」を創出していくような取組が必要。
- ②各地域にプラットフォームを創ることが重要(交流の創出、受け皿の整備)
 - 「お試し居住」により、地方移住における障壁を緩和させ、**人の動きを活発化**。そのためには**空き家バンク制度の有効活用や賃貸化**がカギ。
 - ロールモデル**の存在が人を呼び込む、定着させるのに重要。
 - サバティカル休暇制度により、**人の動きを生むきっかけづくり**が必要。
 - 地域での出会いの場を創ること、まさにプラットフォームが必要。
- ③「**学んでいること**」と「**実際の就職**」とのマッチングの向上・改善
 - 自分が学んでいることが、将来どのように役立つのかを示せれば。
 - 子どもたちに「**様々な生き方**」があることを**体験**させることが重要。
 - 都会の企業を目指している学生でも、**地元でも自由に働くことができ、目指していた環境がある**ことを発信していきたい。
- ④「**暮らし**」や「**交流**」に欠かせない『**食**』
 - 多自然地域の活性化に資する手段に「**観光**」があるが、これにまず求められるのが「**食**」。**県内の優れた「食」を中心に地域と地域をつなぐ**ことでブランド化を図れるのでは。
 - 特産品は域内ではさほどでも、域外で価値が上がることもあるので、域外事業者と連携した付加価値化も有効**では。

その他

- 地域課題の解決に取り組んでいる企業等に県職員を出向させてはどうか。
- 戦略の中身を県民にわかりやすく伝える**ことが重要。その際、若者などの意見を聞き、キャッチな内容を考えることが必要、また、SNSなど新たな発信方法の検討も必要。

(参考③) 現行戦略の内容：戦略目標の施策フレーム

基本理念=五国の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしが実現できる地域へ

戦略目標	重点目標	政策項目	戦略指標	重点指標
I 地域の 元気づくり	①幅広い産業が元気な 兵庫をつくる	1 兵庫の強みを活かした産地間競争力の強化 2 地域産業の振興 3 企業立地・投資の促進 4 起業・創業の適地ひょうごの実現 5 農林水産業の基幹産業化の推進 6 多様な主体の連携による活力創出	①県民一人あたり 県内GDPの伸び ②住んでいる地域に これからも住み続け たいと思う人の割合	1 製造品付加価値額 2 県内サービス産業の売上額 3 開業率 4 対事業所サービス事業所数 5 企業立地件数 6 農林水産業産出額 7 平均拍数 8 県内観光消費額 9 宿泊者数(延べ人数) 10 来訪者満足度 11 リピーター率 12 県内来訪者数/1日 13 芸術文化に接する機会 14 自然災害への安全度合 15 英語力(中学3年生) 16 英語力(高校3年生) 17 将来の夢がある児童生徒 18 将来を考え努力している児童生徒 19 高齢者等も暮らしやすい 20 自然環境の保護
	②内外との交流が活力 を生む兵庫をつくる	7 地域資源を活かした交流人口の拡大 8 定住人口・関係人口の創出・拡大 9 交流を支える交通基盤の充実		
	③豊かな文化が息づき、 安全安心でにぎわい あふれる兵庫をつくる	10 豊かな文化が息づき、にぎわいがあふれる 地域づくり 11 安全安心で、快適に暮らせる地域づくり 12 次代の人材が育ち、誰もが力を発揮できる 地域づくり		
II 社会増対策	④自分らしく働ける 兵庫をつくる	13 地元就職の促進 14 UJIターンの促進 15 外国人材の活躍推進	③日本人の転入超過数 ④若者定着率93.0% ⑤外国人の増加数	21 若者の転入超過数 22 新たに農林水産業に就いた者 23 専門的な外国人材の受入数
III 自然増対策 (子ども・子育て)	⑤結婚から子育てまで 希望が叶う兵庫を つくる	16 結婚のきっかけづくり 17 安心して子どもを産み育てられる環境の整備 18 子育て応援社会の形成	⑥合計特殊出生率 ⑦婚姻件数	24 結婚願望がある者 25 安心して子育てする者 26 保育所待機児童数 27 放課後児童クラブの待機児童数
IV 自然増対策 (健康長寿)	⑥生涯元気に活躍できる 兵庫をつくる	19 健康づくりの推進 20 高齢者等誰もが安心して暮らせる環境整備 21 元気高齢者の社会参加の促進	⑧平均寿命と健康寿命の差 ⑨運動を継続している者	28 がんによる死亡数 29 朝食を食べる者 30 認知症相談医療機関の登録数 31 要介護認定率 32 高齢者の有業率

これらを踏まえ、
具体的に各個別事業を実施

これらを踏まえ、
具体的に個別の政策アウトカム指標を設定 6

(参考④) 現行戦略の内容：後期2カ年の重点的取組方針

- 「ひょうごビジョン2050」※の策定や、コロナ禍による社会潮流の変化を踏まえ、第二期戦略の中間年にあたる2022年(R4)に見直し
- 現戦略の基本理念や枠組みは維持しつつ、戦略の進捗状況やビジョンの目指す姿、社会潮流等を踏まえ、計画期間の後期2カ年における重点的な取組方針を明示

※【「ひょうごビジョン2050」が示す兵庫の姿】

誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』

【5つの目指す社会】

- ① 自分らしく生きられる社会
- ② 新しいことに挑戦できる社会
- ③ 誰もが取り残されない社会
- ④ 自立した経済が息づく社会
- ⑤ 生命の持続を先導する社会

■後期2カ年の重点取組方針

共通基盤

GROWTH DRIVER ～本県の持続的な成長、発展を牽引するための、全ての取組に通じる共通基盤～

- SDGs：持続可能な社会の実現に向けた世界の共通目標であり、全ての主体の行動指針
- 公民連携：社会課題の解決に向け、多様な主体のポテンシャルを活かし合う
- DX：時間の制約や距離の壁を越え、付加価値を高める

Frontier

～ポストコロナ社会を先導する～

- GXの推進
 - ・水素サプライチェーンの拠点形成
 - ・蓄電池関連産業の集積促進
- 2025年大阪・関西万博等を見据えた関西・瀬戸内交流圏の形成
 - ・ひょうごフィールドパビリオンの展開
 - ・大阪湾バイエリアの活性化
 - ・瀬戸内エリアとの交流促進
- 新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決
 - ・多自然地域における支援体制の構築や企業等との連携による関係人口の創出
 - ・高度外国人材や留学生等の受入促進

Return

～地方回帰の流れを捉える～

- 働き方改革先進県の実現
 - ・Z世代の就業志向を踏まえた企業のSDGsの取組促進
 - ・誰もが自分らしく働くことができる職場づくりの推進
- 移住施策の強化
 - ・相談体制や移住促進イベントの強化
 - ・奨学金返済支援等による移住環境の整備
- シビックプライドの醸成
 - ・スポーツや芸術文化等による地域活性化
 - ・地域内外で活躍する起業家と若い世代との交流機会の創出

Future

～将来世代への応援を強化する～

- 結婚・出産・子育て支援の充実
 - ・不妊症等治療が受けやすい環境の整備
 - ・家事・育児等に不安を抱える家庭への支援強化
- 課題を抱える人への支援強化
 - ・ヤングケアラーへの支援
 - ・不登校やひきこもり等の課題を抱える人への支援
- 教育への投資強化
 - ・学校施設の改修や授業・部活動の環境充実
 - ・分離横断型の新学科の創設(特色ある学校)
 - ・国際教育の充実

3つの柱と主な取組